TRCReady が診断に有用でだった粟粒結核の２症例

◎松本 綾[1)]、溝口 義浩[1)]、東川 友佳[1)]、緒方 昌倫[1)]
公立学校共済組合 九州中央病院[1)]

【はじめに】粟粒結核とは結核菌（*Mycobacterium tuberculosis*）が血行性に全身に播種し、多臓器に結核病変が形成される結核症である。粟粒結核は早期の診断と適切な治療が肝心であるが、その症状は体重減少や発熱、倦怠感など漠然としていて特定しにくい場合がある。今回、自動遺伝子検査装置 TRCReady-80（東ソー株式会社）による結核菌の証明が粟粒結核の診断に有用であった 2 症例を経験したので報告する。

【症例１】86 歳男性。非小細胞肺癌の化学療法目的で入院。来院時発熱（37.8℃）と倦怠感あり。入院時の胸部 CT 検査にて両肺にランダムな分布で特徴的な粒状影が認められ、粟粒結核が疑われた。尿の抗酸菌検査が提出され、塗抹検査は陰性であったが、結核菌 TRC は陽性であった。翌日提出された喀痰の抗酸菌塗抹検査はガフキー 1 号で陽性、結核菌 TRC も陽性となり、粟粒結核と診断された。リファンピシン、イソニアジド、エタンブトールによる 3 剤で抗結核薬治療を開始し、転院となった。

【症例２】71 歳男性。脳梗塞、高血圧、腰部脊柱管狭窄症、胃癌の既往歴があり、数カ月前から栄養障害（亜鉛欠乏）によると思われる味覚障害で亜鉛補充を試みていた。その後食欲低下、体重減少が悪化し、発熱と倦怠感を主訴に来院。胸部 CT で両肺に無数の結節像があり、粟粒結核が疑われた。胃液、尿の抗酸菌検査が提出され、塗抹検査はともにガフキー 1 号で陽性であった。結核菌 TRC も陽性で、画像所見を併せて粟粒結核と診断された。イソニアジド、リファンピシンの 2 剤で治療を開始し、7 日後よりエタンブトールを追加し加療を続け、21 日後退院となった。

【まとめ】TRCReady-80 は転写-逆転写協奏反応を利用し、インターカレーター性蛍光色素標識プローブ（INAF プローブ）の存在下、等温で転写及び逆転写反応を協奏的に行うことで RNA を増幅してリアルタイムに蛍光シグナルを測定する方法であり、迅速性と高感度を両立し得る遺伝子検査法である。今回、結核菌 TRC 検査により迅速に診断に至った粟粒結核の 2 症例を経験し、改めて遺伝子検査の有用性を実感することができた。

092-541-4936（代表）